

## 〈研究資料〉

サッカーにおけるスコア 2-0 からの試合結果に関する調査：  
国内外のリーグを対象として楠 豪<sup>1</sup>・尾崎 駿大<sup>1</sup>・國枝広太郎<sup>1</sup>・藤田 峻介<sup>2</sup>・廣津 信義<sup>2</sup>Match Outcomes from a 2-0 Score in Soccer:  
An Empirical Study Across Various Domestic and International LeaguesGou KUSUNOKI<sup>1</sup>, Shundai OZAKI<sup>1</sup>, Koutaro KUNIEDA<sup>1</sup>,  
Ryosuke FUJITA<sup>2</sup> and Nobuyoshi HIROTSU<sup>2</sup>

## Abstract

本研究では、サッカーの試合においてスコア 2-0 でリードしている状況からの最終の試合結果に関する客観的な資料を得るべく、国内のみならず欧州各国のリーグなど10のリーグ・大会に関わるデータを基に調査した。Jリーグ、関東大学1部リーグ、欧州リーグ、UEFAチャンピオンズリーグ、FIFAワールドカップについて2-0の状況になった全28110試合を対象として、2-0でリードしていたチームが最終的に勝利した試合数、引き分けとなった試合数、敗北となった試合数の割合を求めた。それぞれの割合は $\chi^2$ 検定と残差分析を用いて統計的に評価した。本研究で調査したリーグ・大会では逆転負けが起きた割合は1～5%であることが分かった。また、国内においては、関東大学1部リーグはJリーグよりも逆転負けが起きた割合が高かった。国内リーグは欧州リーグに比べ、逆転負けが起きた割合が高いことが分かった。

Key words: データ分析, 逆転, セーフティリード, サッカーリーグ  
Data Analysis, Comebacks, Safety Lead, Soccer League

## I. 緒 言

2018年に開催されたFIFAワールドカップ（以下、「W杯」）において、日本代表はベルギー代表からスコア2-0と2点のリードを奪いながらも3失点を許し逆転負けした。少ない得点数で勝敗を争うサッカーの競技特性上、2-0はかなり優位な状況

にあると考えるのが一般的であるように思われるが、その試合後には「2-0は危険なスコア」というワードがSNSを中心に飛び交った<sup>5)</sup>。

2-0の優位性を考察したコラム<sup>4)</sup>によると、2015年から2019年に行われたJ1リーグ、J2リーグ、J3リーグの試合で2-0となった1337試合について調査したところ2-0から勝利した割合は91.9%、引き分けになった割合は5.2%、敗北した割合は2.9%であった。また、2-0から2-1となった場合は1-0と比べて、リードしているチームの追加点が決まりにくいことや、後半15分までは同点に追いつかれる可能性が高くなることが示されている。このようにJリーグにおける2-0の優位性については把握され

<sup>1</sup> 順天堂大学スポーツ健康科学部  
Faculty of Health and Sports Science, Juntendo University

<sup>2</sup> 順天堂大学大学院スポーツ健康科学研究科  
Graduate School of Health and Sports Science, Juntendo University  
責任著者名：藤田峻介  
E-mail: fryosuke.719@gmail.com

つつあるが、これがJリーグなど日本特有の傾向かどうかについては興味のあるところである。

本研究では、2-0からの逆転に関する客観的な資料を得るべく、国内のみならず欧州各国のリーグなど10のリーグ・大会に関わるデータを基に、2-0でリードしていたチームの最終的な試合結果の割合を求め統計的に評価した。また、参考までに2-1から逆転負けした割合についても調べ、比較してみた。

## II. 研究方法

本研究で使用するデータはFlashScore.com<sup>1)</sup>、Jリーグ公式サイト<sup>3)</sup>、関東大学サッカー連盟公式サイト<sup>2)</sup>、W杯のデータベース<sup>6)</sup>から入手した。対象はJリーグ（J1リーグ、J2リーグ、J3リーグ）、関東大学1部リーグ、欧州リーグ（プレミアリーグ、セリエA、ラ・リーガ、ブンデスリーガ）、UEFAチャンピオンズリーグ、W杯の全28110試合である。これらの試合から前後半90分間で2-0の状況になった試合数を集計し、リードしているチームが最終的に勝利した試合数、引き分けとなった試合数、敗北となった試合数を求めた。対象としたリーグ・大会の一覧を表1に示す。基本的に

リーグ戦で行われる試合を対象としているが、W杯については試合数が少ないこともありトーナメント戦も含めている。

## III. 結果

表1に示した国内リーグ、欧州リーグ、UEFAチャンピオンズリーグ・W杯について、以下順にそれぞれのリーグ・大会の年度毎の調査結果を示す。

### 1. 国内リーグ

#### 1) J1リーグ

J1リーグは2011～2020年の10シーズン分を分析した。図1は2-0からリードしているチームが最終的に「勝利」、「引き分け」、「敗北」となった試合数を基に、シーズン毎に帯グラフとして表示したものである。例えば、2020年のJ1リーグにおいて2-0となった試合は116試合であり、リードしていたチームが勝利した試合数は108、引き分けとなった試合数は3、敗北した試合数は5となっている。「合計」はシーズン毎の結果を合計したものである。

図1より2-0でリードしたチームは概ね90%以上の割合で勝利していることがわかる。各シーズンにおいて数パーセントのばらつきはみられるが、合計としては2-0から勝利した割合は92.0%（=1008/1096）、引き分けとなった割合は4.9%（=54/1096）、敗北した割合は3.1%（=34/1096）であった。

#### 2) J2リーグ

J2リーグも2011～2020年の10シーズン分を対象とした。結果を図2に示している。図2よりJ1リーグ同様にリードしたチームの概ね90%以上が勝利していることがわかる。合計としては2-0から勝利した割合は92.2%（=1451/1573）、引き分けとなった割合は5.5%（=86/1573）、敗北した割合は2.3%（=36/1573）であった。

#### 3) J3リーグ

J3リーグは2014～2020年の7シーズン分を対象とした。結果を図3に示している。図3よりJ1リーグ同様にリードしたチームの概ね90%以上が勝利していることがわかる。合計としては2-0か

表1 分析対象としたリーグ・大会の一覧

分類	リーグ・大会名	対象シーズン	試合数	データ入手サイト
国内リーグ	J1リーグ	2011～2020	3060	Jリーグ公式サイト <a href="https://www.jleague.jp/match/">https://www.jleague.jp/match/</a>
	J2リーグ	2011～2020	4538	
	J3リーグ	2014～2020	1760	
	関東大学1部リーグ	2011～2020	1320	関東大学サッカー連盟公式サイト <a href="https://www.jufa-kanto.jp/history/">https://www.jufa-kanto.jp/history/</a>
欧州リーグ	プレミアリーグ	2011/2012～2020/2021	3800	FlashScore.com <a href="https://www.flashscore.com">https://www.flashscore.com</a>
	ラ・リーガ	2011/2012～2020/2021	3800	
	セリエA	2011/2012～2020/2021	3800	
	ブンデスリーガ	2011/2012～2020/2021	3060	
UEFAチャンピオンズリーグ・W杯	UEFAチャンピオンズリーグ	1999/200～2020/2021	2304	ワールドカップのデータベース <a href="https://worldcup.com/AWC2.htm">https://worldcup.com/AWC2.htm</a>
	W杯	1974～2018	668	

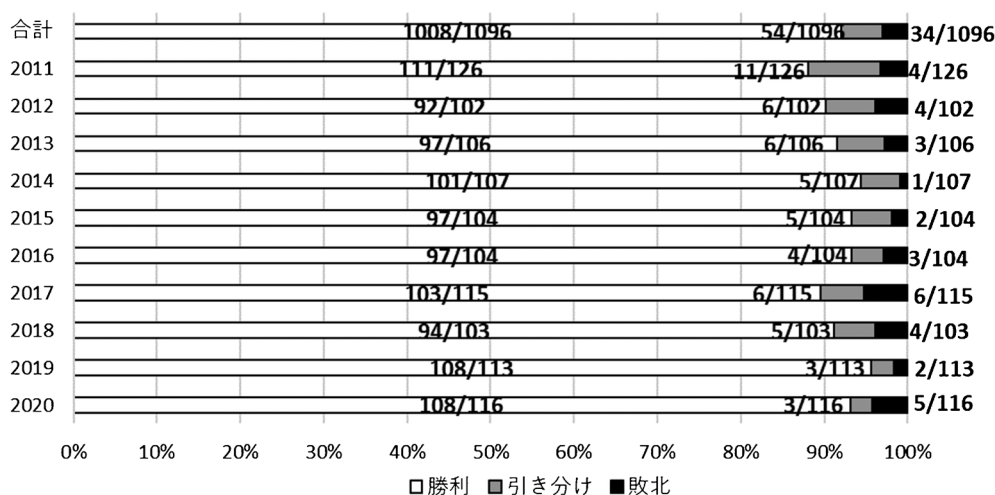


図1 J1リーグにおける2-0からの試合結果

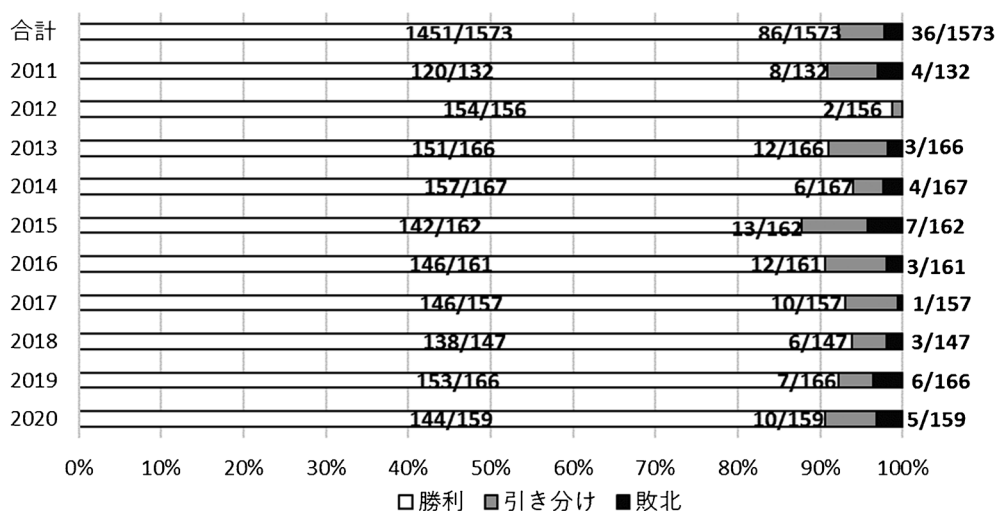


図2 J2リーグにおける2-0からの試合結果

ら勝利した割合は92.9% (= 614/661), 引き分けとなった割合は4.4% (= 29/661), 敗北した割合は2.7% (= 18/661)であった。

#### 4) 関東大学1部リーグ

関東大学1部リーグは2011~2020年の10シーズン分を対象とした。結果を図4に示している。図4よりリードしたチームの概ね90%が勝利していることがわかる。合計としては2-0から勝利した割合は89.0% (= 470/528), 引き分けとなった割合は5.7% (= 30/528), 敗北した割合は5.3% (= 28/528)であった。

## 2. 欧州リーグ

### 1) プレミアリーグ

プレミアリーグは2011/2012~2020/2021年の10シーズン分を対象とした。結果を図5に示している。図5よりリードしたチームの概ね90%以上が勝利していることがわかる。合計としては2-0から勝利した割合は92.9% (= 1449/1560), 引き分けとなった割合は5.4% (= 84/1560), 敗北した割合は1.7% (= 27/1560)であった。

### 2) セリエA

セリエAは2011/2012~2020/2021年の10シーズ

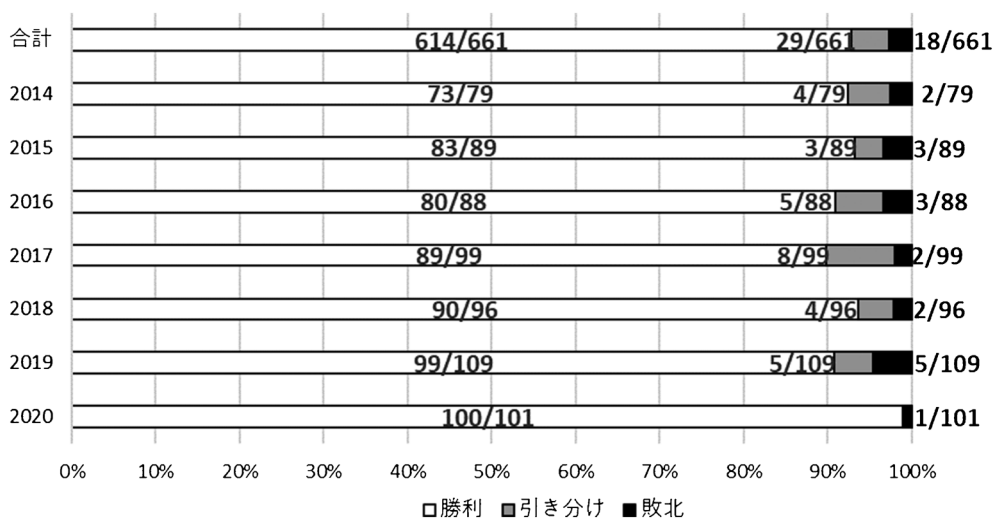


図3 J3リーグにおける2-0からの試合結果

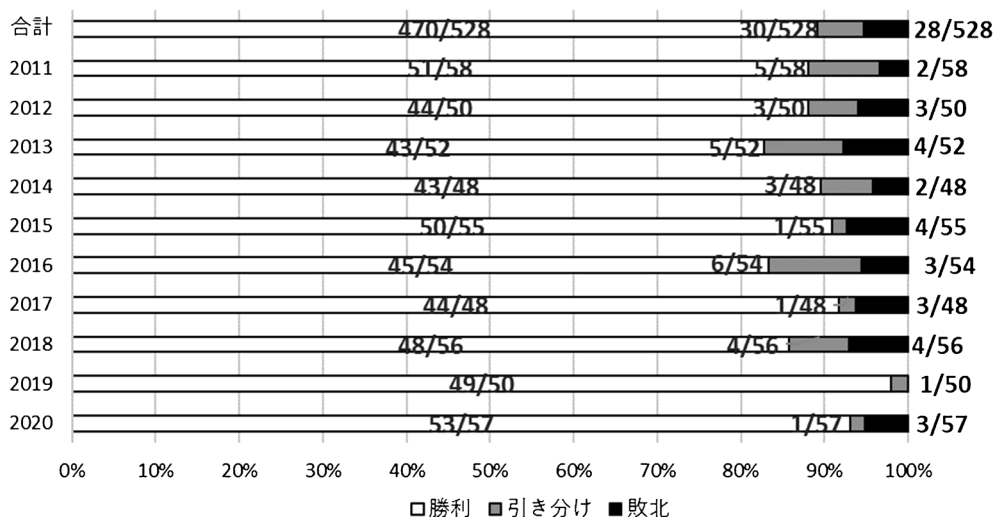


図4 関東大学1部リーグにおける2-0からの試合結果

ン分を対象とした。結果を図6に示している。図6よりリードしたチームの概ね90%以上が勝利していることがわかる。合計としては2-0から勝利した割合は91.6%（=1390/1517）、引き分けとなった割合は6.4%（=97/1517）、敗北した割合は2.0%（=30/1517）であった。

### 3) ラ・リーガ

ラ・リーガは2011/2012～2020/2021年の10シーズン分を対象とした。結果を図7に示している。図7よりリードしたチームの概ね90%以上が勝利していることがわかる。合計としては2-0から勝

利した割合は93.3%（=1390/1490）、引き分けとなった割合は5.2%（=77/1490）、敗北した割合は1.5%（=23/1490）であった。

### 4) ブンデスリーガ

ブンデスリーガは2011/2012～2020/2021年の10シーズン分を対象とした。結果を図8に示している。図8よりリードしたチームの概ね90%以上が勝利していることがわかる。合計としては2-0から勝利した割合は91.7%（=1205/1314）、引き分けとなった割合は6.3%（=83/1314）、敗北した割合は2.0%（=26/1314）であった。

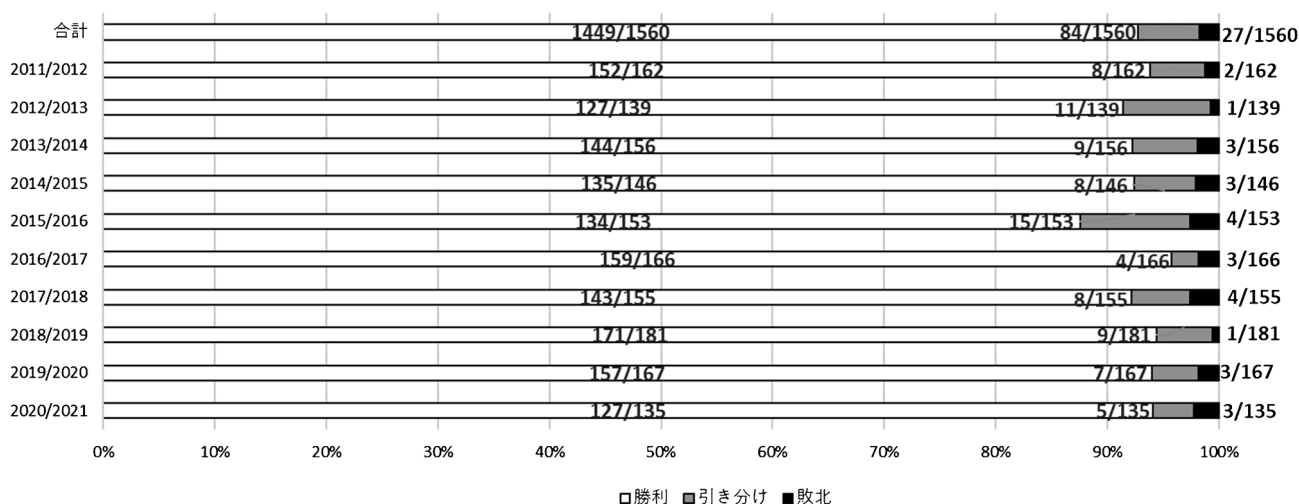


図5 プレミアリーグにおける2-0からの試合結果



図6 セリエAにおける2-0からの試合結果

### 3. UEFAチャンピオンズリーグ・W杯

#### 1) UEFAチャンピオンズリーグ

UEFAチャンピオンズリーグは年間の試合数が多くないこともあり1999/2000～2020/2021年の22シーズン分を対象とした。結果を図9に示している。図9よりリードしたチームの概ね90%以上が勝利していることがわかる。合計としては2-0から勝利した割合は93.4% (= 436/467), 引き分けとなった割合は4.9% (= 23/467), 敗北した割合は1.7% (= 8/467)であった。

#### 2) W杯

W杯は4年毎に開催され試合数も少ないので、

1974～2018年の12シーズン分を対象とした。

結果を図10に示している。図10よりリードしたチームの概ね90%以上が勝利していることがわかる。合計としては2-0から勝利した割合は96.3% (= 231/240), 引き分けとなった割合2.9% (= 7/240), 敗北した割合は0.8% (= 2/240)であった。

#### 4. 全リーグ・大会のまとめ

全リーグ・大会をまとめた結果を図11に示している。2-0からリードしたチームが勝利した割合は92.4% (= 10160/11001), 引き分けとなった割合は5.5% (= 600/11001), 敗北した割合は2.2% (= 241/11001)であった。

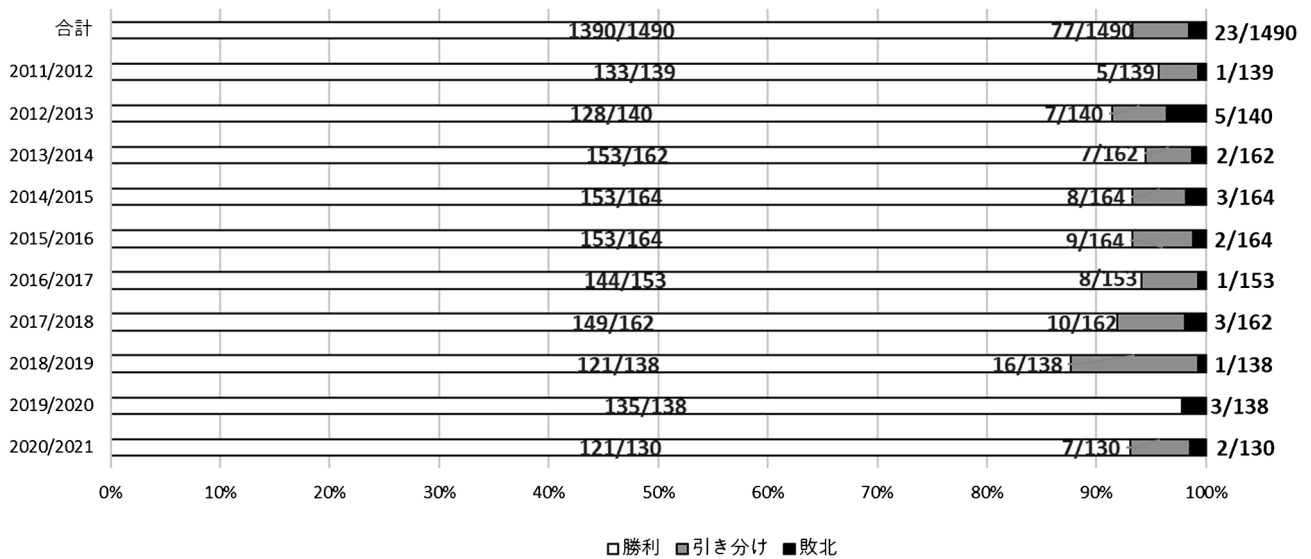


図7 ラ・リーグにおける2-0からの試合結果



図8 ブンデスリーグにおける2-0からの試合結果

図11において $\chi^2$ 検定を行ったところ、 $\chi^2 = 47.6$ 、(自由度18)で $p = 0.0001$ となり、0.1%水準で有意であった。残差分析を行った結果、“関東大学1部リーグでの勝利”、“関東大学1部リーグでの敗北”はそれぞれ1%水準、0.1%水準で、“J1リーグでの敗北”と“W杯での勝利”は5%水準で標準化残差が限界値を超えており、2-0からの結果が他と異なるといえる。2-0から勝利した割合はW杯において有意に高く、関東大学1部リーグにおいて低く、逆転負けとなった割合はJ1リーグと関

東大学1部リーグにおいて高かったと言える。

#### IV. 考 察

国内リーグでの結果に着目すると、J1リーグ・J2リーグ・J3リーグよりも関東大学1部リーグにおいて2-0から逆転負けとなる割合が高いことが明らかになった。本研究のデータだけで考察することは難しいが、プロリーグと大学リーグの実力の違いが反映されていると思われる。ちなみに、国内リーグについて、Jリーグの合計と関東大学1部

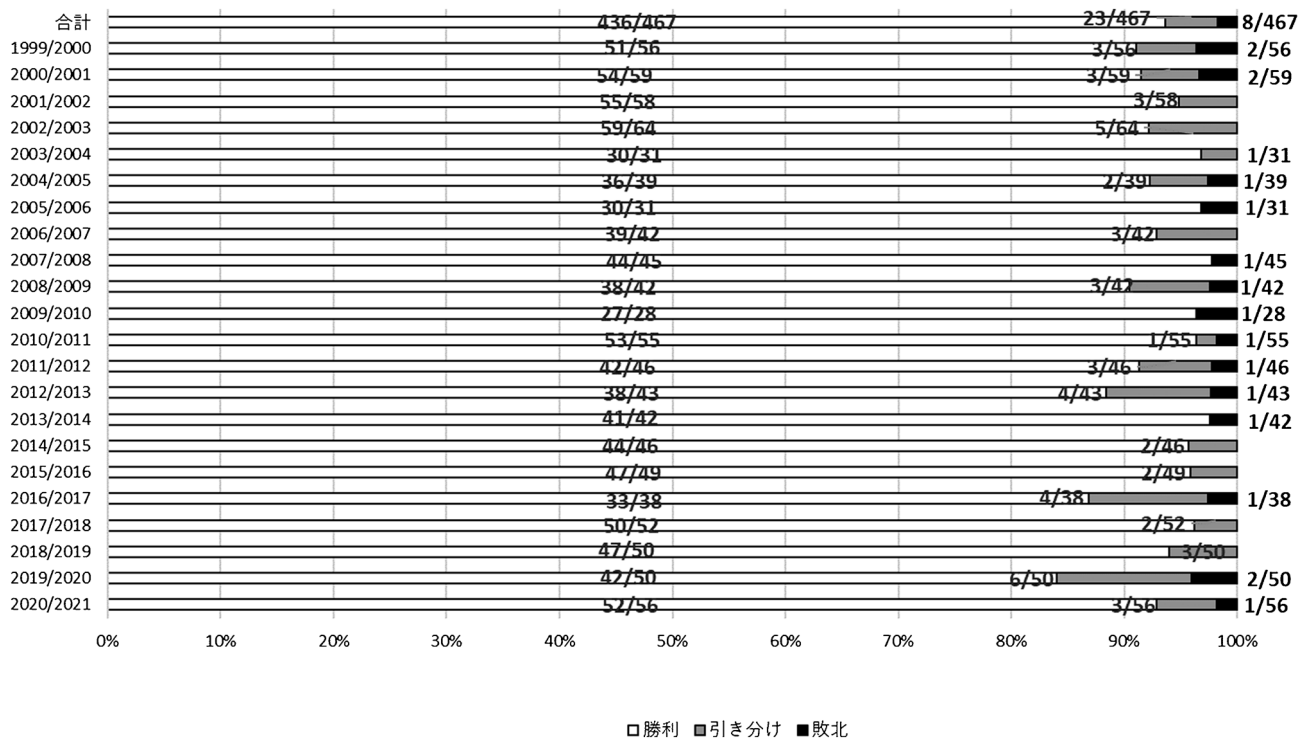


図9 UEFAチャンピオンズリーグにおける2-0からの試合結果

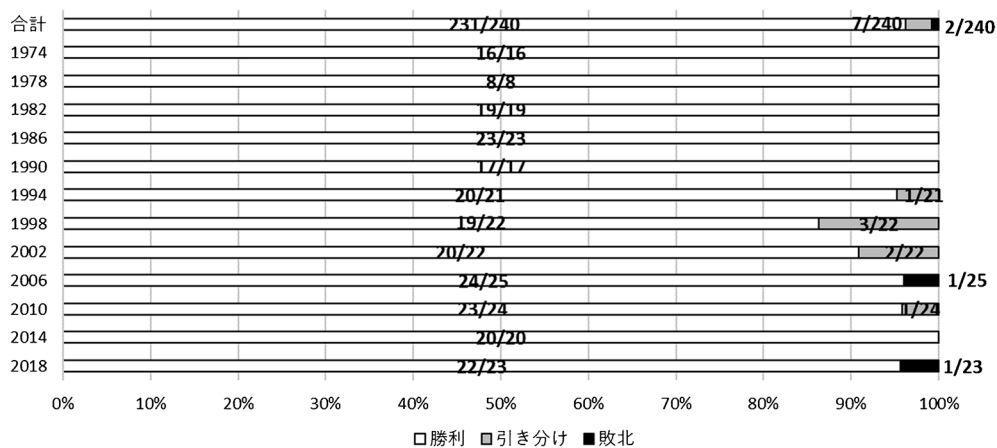


図10 W杯における2-0からの試合結果

リーグとで $\chi^2$ 検定を行ったところ、 $\chi^2 = 11.6$ （自由度2）、 $p = 0.003$ となり、1%水準で有意であった。

国内リーグと欧州リーグとを比較してみると、国内リーグは欧州リーグよりも逆転負けとなる割合が高いという結果となっている。今回調査した期間においては、欧州リーグは国内リーグよりも競技レベルが高いことは一般的には認められていると言え、

国内リーグでもJリーグが関東大学1部リーグより逆転負けが少ないことと同様に、レベルの高いリーグであるほど逆転負けが起きにくい傾向が見られると考えてよいと思われる。ちなみに、Jリーグの合計と欧州リーグの合計とで $\chi^2$ 検定を行ったところ、 $\chi^2 = 9.14$ （自由度2）、 $p = 0.0104$ となり、5%水準で有意であった。

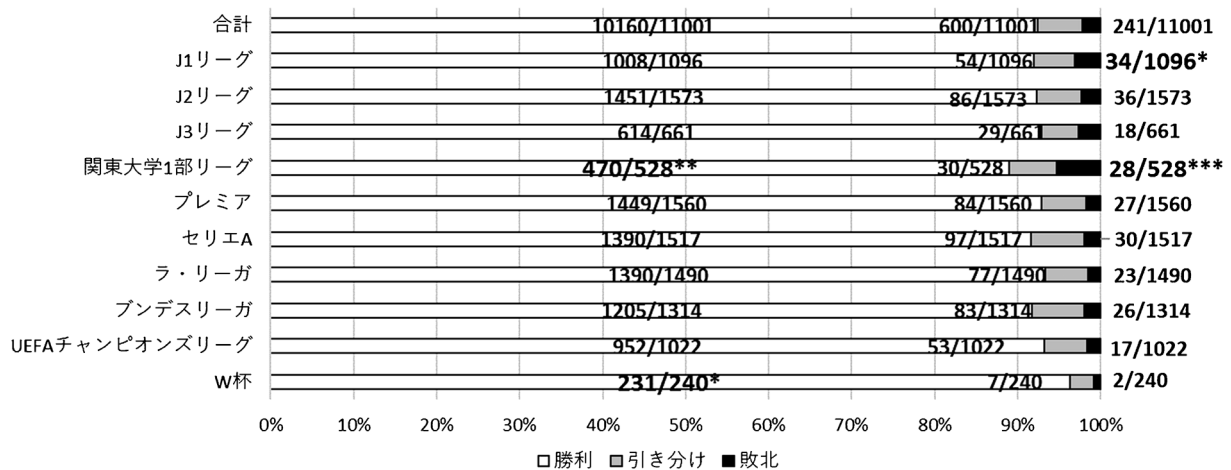


図11 全リーグ・大会における2-0からの試合結果まとめ

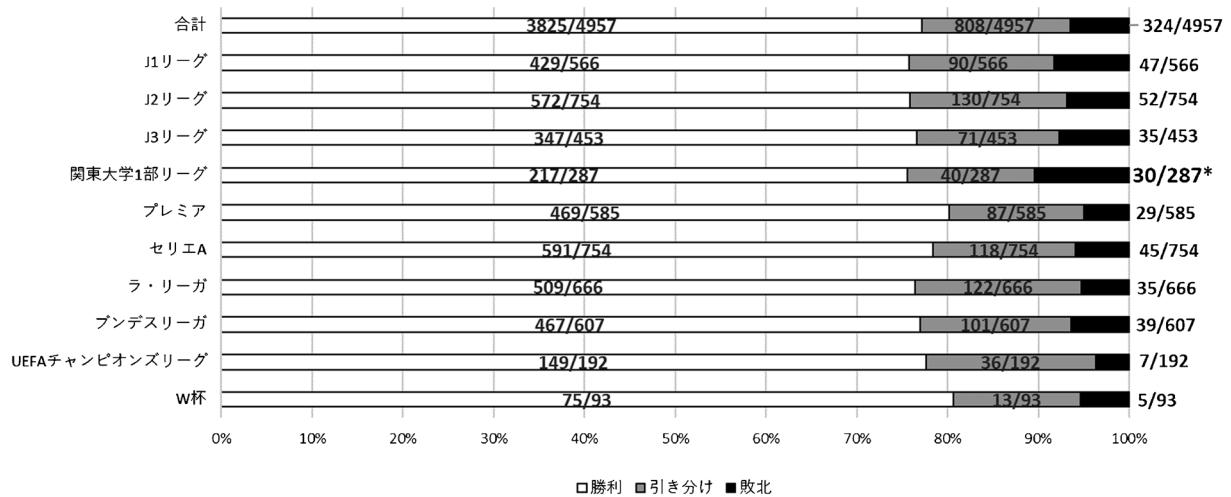


図12 全リーグ・大会における2-1からの試合結果まとめ

参考として、2-1の状況からリードしているチームの最終結果を同様に集計したものを図12に示している。リーグ・大会全体で勝利した割合は77.2% (= 3825/4957)、引き分けとなった割合は16.3% (= 808/4957)、敗北した割合は6.5% (= 324/4957)であった。図12において $\chi^2$ 検定を行ったところ、 $\chi^2 = 24.15$ 、(自由度18)で $p = 0.15$ となり、5%水準で有意ではなかった。残差分析の結果としては、“関東大学1部リーグ敗北”は5%水準で標準化残差が限界値を超えており、2-1から逆転負けとなった割合は、関東大学1部リーグにおいて高かったと言える。なお、2-1からの割合については年度ご

との集計結果までは本稿では示していないが傾向としては概ね2-0と同様の傾向がみられた。

ちなみに、逆転負けした割合を2-0からと2-1からとで比較してみると、国内リーグで2-0から逆転負けした割合は3.0% (= 116/3858)、2-1から逆転負けした割合は8.0% (= 164/2060)であった。欧州リーグでは2-0と2-1から逆転負けした割合はそれぞれ1.8% (= 106/5881)、5.7% (= 148/2612)であり、UEFAチャンピオンズリーグ・W杯ではそれぞれ1.5% (= 19/1262)、4.2% (= 12/285)であった。欧州リーグは2-0から逆転負けした割合は2-1からの割合の0.32倍 (= 1.8%/5.7%)



であるのに対して，国内リーグは0.38倍（=3.0%/8.0%）であり，欧州リーグの方が2-0からの逆転負けは2-1から逆転負けに対して比率という観点でも，起こりにくかったと言える。

## V. 結 論

本研究ではサッカーの試合において2-0からの最終の試合結果について国内リーグ，欧州リーグ，UEFAチャンピオンズリーグ・W杯の10のリーグ・大会に関わるデータを基に調査した。本研究で調査したリーグ・大会では，逆転負けが起きた割合は1~5%程度であった。また，国内において，関東大学1部リーグはJリーグよりも逆転が起きた割合が高かった。国内は欧州リーグに比べ，逆転が起きた割合が高いことが分かった。

本研究では2-0からの試合結果について単純集計により示し，国内外でのリーグ間の比較を行った。今回は2-0になった時刻や逆転した時刻，あるいは得点の推移までを含めた分析は行っていない。今後これらを考慮してさらに深く分析していきたいと考えている。

## 利益相反

本研究に関して，開示すべき利益相反はない。

## VI. 文 献

- 1) FlashScore.com, <https://www.flashscore.com>（最終閲覧日2021年3月24日）
- 2) JUFU 関東一般財団法人関東大学サッカー連盟オフィシャルサイト，過去の試合記録, <https://www.jufu-kanto.jp/history/>（最終閲覧日2021年11月7日）
- 3) 【公式】Jリーグ公式サイト，日程・結果, <https://www.jleague.jp/match/>（最終閲覧日2021年11月7日）
- 4) 【公式】Jリーグ公式サイト，コラム，2-0は本当に『危険なスコア』か？(J.LEAGUE.jp), <https://www.jleague.jp/column/article/599/>（最終閲覧日2022年3月18日）
- 5) SOCCERKING, 2-0は本当に危険なスコアなの？プレミアの過去のデータをもとに検証, <https://www.soccer-king.jp/news/world/wc/20180705/789633.html>（最終閲覧日2021年3月24日）
- 6) ワールドカップのデータベース，W杯大会別全成績, <https://worldcdb.com/AWC2.htm>（最終閲覧日2021年11月19日）

（令和5年12月8日 受付日）  
（令和5年12月18日 採録決定日）  
（令和6年●月●日 早期公開）